

## ONE POINT ADVICE

### ○組み立て編

- ◆ 組み立てにあたっては接着剤が見えないように、そしてきちんと接着することを心がけてください。パーツに触れただけでポロリなんていうのは感心しません。腕の見せどころです。ポイントはいろいろな接着剤を使い分けることです。
- ◆ プラモデル用接着剤（ピン入り・ハケ付き）＝最も基本的な接着剤です。急がない部分の接着に使用します。接着する両面に薄く塗布して素早く貼り合わせます。接着剤を付けすぎると、はみ出して汚くなります。貼り合わせる部分を合わせておいて流し込んで接着する流し込みタイプもあります。なお、メッキ部分や塗装部分はあらかじめはがしておいて接着します。
- ◆ 瞬間接着剤＝この接着剤が開発されてプラモデルの製作が能率的にできるようになりました。製品化された当時は接着部分が白濁化する欠点がありましたが、近年は改善されています。接着剤をたくさん付けると良く付くわけではないので、付けすぎないようにしましょう。パテを兼ねた瞬間接着剤もあります。硬化促進剤の使用も良いと思います。
- ◆ エポキシ系接着剤＝2本のチューブから同量を出して混ぜ合わせて使用しますので手間がかかるのが欠点ですが、金属、プラスチック、木材などを強力に接着します。
- ◆ クルマのドアミラーなどは接着面が少ないので確実な接着が困難です。これは差し歯の要領で接着しましょう。ボディ面とドアミラー面にピンバイスで穴をあけてピアノ線、真鍮線などを入れて瞬間接着剤で固定します。

### ○塗装編

- ◆ 自動車やバイクモデルの命は何と言ってもツヤです。要領をマスターすれば、どなたでも素晴らしいツヤのモデルに仕上げることができます。また、自分だけのオリジナルカラーのモデルも作ることができます。以下、カーモデルの塗装を中心に説明します。ボディの塗装は余程の名人でもない限り筆塗りは不可能です。

缶スプレーかエアブラシでの塗装になります。その塗装の手順を説明します。

- ◆ 最近の製品は製造段階での油の付着は殆どなくなりましたが、製作過程で手の脂が付着することもあります。そのまま塗装すると塗料をはじいてしまいますので台所用の中性洗剤で洗っておくことをお勧めします。
- ◆ 成形色が白の場合は良いのですが、黒などの場合、赤や黄色の塗料を吹き付けても下地の黒が浮き出てしまいきれいな色に仕上がりません。そのような時には白やグレーのサフェーサーを塗っておきます。
- ◆ 色を塗り分ける時はマスキング作業をします。ここで手を抜くと、テープの隙間から塗料が入り込んでしまい、その修正にかえて手間がかかることになってしまいます。マスキングは念入りに行いましょう。なお、マスキングテープが貼りづらい場所は、マスキングゾル（液体マスキング剤）を使用します。
- ◆ いよいよ本番の塗装に入りましょう。エアブラシによる塗装ではラッカー系の塗料が乾きも早く、たれにくいので広く使われています。また塗膜も固いので仕上げの研ぎ出しが可能です。エアブラシ塗装の場合はシンナーの薄め具合に注意して下さい。濃すぎると塗料が蜘蛛の巣のようになってしまいますし、薄すぎると流れやすくなります。標準的には塗料1に対して薄め液1.5～2.0位が良いと思います。15分～20分で乾きますので塗装を3回くらい行います。
- ◆ 塗装が終わったらデカールを貼ります。曲面に貼る時はデカールの軟化剤（タミヤ＝マークフィット・クレオス＝マークソフターなど）を、デカールの接着力を強めるためには（タミヤ＝デカールのり・クレオス＝マークセッターなど）を使います。
- ◆ 次にクリヤーを塗ります。デカールの上からクリヤーを塗るとデカールの変色、剥がれを防ぐことができます。クリヤーはツヤ有り（クルマなど）、半ツヤ（航空機など）、ツヤ消し（戦車など）があります。ラッカー系のクリヤーで問題ありませんが最初の1～2回は薄く表面に膜ができる程度に吹き付けます。最初から厚く塗るとせっかく貼ったデカールがグニャグニャになってしまいます。ツヤを出すためのクリヤー塗装は3回程度は必要です。
- ◆ クルマなどツヤを出したいときはクリヤー塗装が完全に乾いてから#2400～#8000位の耐水ペーパー（クレオスのMr.ラプロスなど）で表面を平らにし

て最後はコンパウンドで仕上げます。この時、エッジ部分は磨かないで下さい。すぐに下地が出てしまいます。どうですか？ピカピカになったでしょう。

- ◆ 缶スプレーを使う時もエアブラシでラッカー系の塗料を使って塗装する時も同じですが湿度の低い日に作業をして下さい。良い仕上がりに結びつきます。
- ◆ 缶スプレーを使用するときの注意事項を書いておきましょう。まず、冬季などで缶が冷えているときは手のひらなどで温めてから吹き付けて下さい。冷えた状態で吹き付けますと塗料が霧状にならず仕上がりが悪くなります。塗装の前に缶を良く振って下さい。被塗装物から25cm位離して塗装して下さい。被塗装物で止めないで全体に塗装して下さい。(塗料が流れてしまいます)1回で仕上げようとせず、薄く3回くらい塗装を繰り返して下さい。ツヤ有りの塗装をするときは明るい所で塗装すると表面がキラッと光るのが分かります。この時がやめ時です。欲張ると塗料が流れます。乾燥後ツヤが足りない時はコンパウンドで磨くとツヤがでます。缶に塗料が残っているときは缶を逆さまにして2~3秒間空吹きをして下さい。これを怠ると、ノズルが詰まって使えなくなってしまいます。
- ◆ 細かいパーツはエナメル系の塗料で筆塗りで仕上げましょう。エナメル塗料は乾燥が遅い分筆痕が残らずきれいに仕上がります。
- ◆ 塗料を塗り重ねる時は順番に注意しましょう。ラッカー系の上にエナメル系、その上に水性塗料を塗るのは問題ありませんが、その反対の順番で塗り重ねますと下の塗料を侵してしまいます。
- ◆ 組み立ててから塗装するのか、塗装してから組み立てるのか良く質問を受けます。基本的には組み立て後に同じ色になる部分は組み立て後、違う色になる部分は塗装後組み立てるとお答えしておきましょう。